

2014 年度春学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	外国語科目
-----------	-------

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

外国語科目では 98.2%(昨年度春学期 96%)の実施率であった。回答率は、90.7%(昨年度春学期 89.8%)であり、ほぼ同じ傾向を示している。

春学期と比較して全体的な傾向として、以下 4 点が挙げられる。

- (1) 授業内容の理解、授業に対する意欲的な取組、教員の話し方の理解度、授業内容とシラバスの一致、教員の授業に対する配慮に関する項目は平均値 4.0 を超え、全体的に高い。このことは昨年度春学期とほぼ同じ傾向を示している。全体の科目平均とほぼ同じ傾向を持つ。
- (2) 授業による知的好奇心の高まりや授業方法の工夫も平均値 3.8 以上であり、全体的に高い傾向にある。これは昨年度春学期とほぼ同じ傾向を示している。ただ、全学の科目平均からはやや低い傾向がある。
- (3) 今回、授業時間以外の学習時間を一週間に何時間学習したのかを明確し、全学平均と比較したグラフが新たに提示されている。とてもわかりやすくなった。外国語科目の授業外学習時間が 0.73 時間であり、全学平均よりやや高い。全体として 6 割以上の学生が 30 分程度の授業時間外の学習時間である。これも昨年度春学期とほぼ同じ傾向である。
- (4) DWCLA10 の選択率は、思考力とコミュニケーション力がそれぞれ、54.0%(昨年度春学期 52.6%)、コミュニケーション力が 38.5%(昨年度春学期 38.1%)であり、この科目の特徴が表れている。この傾向は、春学期とほぼ同じである。

全体的には、やや異なった傾向も見受けられるが、昨年度春学期とほぼ同様な傾向が読みとれる。この科目は予習、復習を最も必要とする科目である。しかしながら、(3)から分かるように、授業時間以外の学習時間が全体的に低いことを考えると、学生がもう少し多くの時間を学習することが重要である。また、グローバル人材育成等のことを考えると、全体的にもう少しコミュニケーション力を育成するような授業展開が必要である。今後の一層の努力を期待したい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育・研究推進センター